

上越市議会 各層との意見交換会 開催記録

地域包括支援センター × 市議会



【日時】 令和元年10月15日(火)

14:00～15:45

【会場】 福祉交流プラザ 第一会議室

地域包括支援センター × 市議会

テーマ「地域包括支援センターの再配置後の状況について」

意見・質問	
1	平成31年4月にすこやかにくらし包括支援センターが木田庁舎から福祉交流プラザに移転したが、基本、電話でのやり取りが多く、特に問題は感じていない。区総合事務所との連携の方が重要である。
2	普段、拠点とサテライトは離れ離れであり、サテライトだけで支援に当たることもある。拠点でも、サテライトが抱えている問題に関わることが出来るかが課題だと思っている。拠点がサテライトを巡回訪問して、サテライトが大したことないと思っている事案に対しても、拠点の管理者視点で見る事、気を配ることが重要だと思っている。
3	地域包括支援センターの管理者や関係者同士で、地域の特定課題があれば、それに対する会議を開くことがある。
4	高田地区の4つの地域包括支援センターや直江津地区の3つの地域包括支援センターでは、ケアマネジャー研修等でよく集まっている。再編前、頸北地区でも連絡会を行っていたが、再編後は無くなった。13区については、やりたいと思っても時間がない。
5	市内でケアマネジャーを確保する際、人数はたくさんいるが、地域に出たがらない人が多いと感じている。ケアマネジャーは、主任になって1～2年は熱意があるが、時と共に衰えていく傾向がある。
6	サテライトでは、人員を独自に増員しているところもある。運営に支障は多少なりともあるが、介護予防ケアマネジメント等の法人内の他事業の収入を得て、やり繰りしている。
7	包括の認知向上のため、老人会から依頼を受けて講座を開いたり、民生委員児童委員協議会等で周知しているほか、65歳以上の世帯を訪問する際にチラシや名刺を置いてくる等、地道に周知を行っている。入院時や歩けなくなった時に、チラシや名刺を見て連絡してくるケースが多い。
8	相談者は、地域包括支援センターに直接来てもらえることもあるが、何かあれば区総合事務所に行くケースが多い。総合事務所の近くに事務所を構えている地域包括支援センターが多いため、総合事務所職員から連絡をもらえばすぐに駆けつけることが出来る。総合事務所と連携が取れていれば、エリアの広さはある程度カバーできる。
9	これからは、介護者となる人たちへの周知が重要になってくると思っている。
10	高齢者に対する支援をしていると、その子どもに対する課題を見つけるケースもあるが、件数はなかなか把握できていない。すこやかにくらし包括支援センターから子どもの支援に入ってもらい、改善したケースもある。
11	高田エリアには町家が多く、事業を辞めても1階の店舗部分の改装費用が捻出できず、2階に住んでいるケースが多い。そうすると、高齢化に伴い、居住が不便になってくるのが問題。

意見・質問	
12	高田エリア内のスーパーの数が減少しており、買い物に困る高齢者が増えてきたと感じている。
13	地域包括支援センターの再配置による混乱を想定していたが、半年をかけて、入れ替わった町内を回り、丁寧に説明したことで、混乱は無かった。
14	地域包括支援センターの中では、高齢化するスタッフの世代交代が課題となっている。
15	地域包括支援センターを知ってもらうことを第一として、地域で開かれる会議に参加したり、包括で開催する地域ケア会議に町内会長や民生委員から出席してもらったりしながら、町内での高齢化の現状把握に努めている。
16	民生委員との連携強化に取り組んでいる。民生員の会議に参加することで、繋がりが出来、地域の情報がたくさん入るようになったと感じている。
17	地域で取組んでいる高齢者サロン事業まで歩いていけない高齢者が多いことが課題となっている。
18	身元引受人がおらず、サービスを利用する際に困るケースが増えてきた。認知症や判断能力の低下が見られれば、成年後見制度が利用できるが、そこまででもないケースもあり、対応に苦慮している。
19	人付き合いの希薄化や孤立、地域付き合いを拒否する人の支援が課題となっている。
20	担当エリアが山間部ということもあり、高齢化率が高く、集落全体が65歳以上のところもある。交通手段が無いため、高齢化しても車を運転せざるを得ない環境にある。